



雪印種苗育成

# 太豊 たいほう

**利用性** ●東海・近畿から中国・四国地方にかけては青刈主体の乳・肉牛の飼養が行われ、九州ではいまだ青刈主体の地域が数多く見受けられます。

**特性** ●サイレージが良いか青刈が良いかは別にして、エンバクの青刈利用を行う場合は数多くの品種の中で青刈専用品種「太豊」の栽培が収量的に極めて有利です。

●特に、青刈多回刈条件下では品種間差が顕著となり、再生能力・耐寒性に極めて優れる「太豊」が抜群の収量性を発揮します。

**草姿**：伸長・多けつ型の品種で、「太豊」の名称にふさわしい太茎・大葉・多葉のがん健な草姿で耐倒伏性もそなえています。

### 栽培のポイント

- 播種適期 { 温暖地で年内利用を行う場合は9月下旬。年内と翌春の2回利用ができます。  
西南暖地は9月下旬～10月上旬。年内1回及び早春2回利用ができます。
- 播種量：条播、散播10～12kg (10 a 当り)
- 施肥量：堆きゅう肥2～3トン、苦土石灰100～150kg、NPK成分量各8～10kg
- 刈取り：草丈60～70cm、刈高を10cm程度とし生長点を残す。

### 試験成績 — 青刈2回利用における「太豊」の高収性 —

- 試験地：雪印種苗(株)千葉研究農場 ●調査期：I 番草(年内刈) 12月4日
- 播種期：昭和56年10月3日 II 番草 5月25日
- 区制及び面積：6区制、1区6㎡

#### 1) 生育及び特性

品種名	項目 番草	刈取時草勢		再生力	耐寒性	耐倒伏性	耐病性	観察評価	草丈 (cm)		
		I	II	II	II	II	II	I	II	計	
		12/4	5/25	2/15	3/8	5/25	5/25	5/25	12/4	5/25	
前進	8.1	8	3	7	9	6	2.8	46	103	149	
オールマイテイ	7.6	8	5	8	9	8	5.6	43	135	178	
太豊	7.8	9	8	8	8.6	7	7.7	41	137	178	
豊葉	8.7	7.5	3	7	9	6	3.1	47	112	159	

注：9：極良又は極強～1：極不良又は極弱

#### 2) 収量性

品種名	項目 番草	生				風乾				風乾率	
		I	II	計	比率	I	II	計	比率	I	II
		(kg/10a, %)									
前進	550	1,628	2,178	100	101	203	304	100	18.4	12.5	
オールマイテイ	389	3,200	3,582	164	82	384	466	153	21.1	12.0	
太豊	494	8,111	8,605	395	92	756	848	279	18.6	9.3	
豊葉	678	1,472	2,150	99	115	174	289	95	17.0	11.8	